

Amazing Grace アメイジング・グレース すばらしき神のお恵み

1 歌詞の意味 歌詞の内容を理解して、心をこめて歌いましょう。

Amazing Grace

すばらしき神のお恵み (安倍試訳)

Amazing grace, how sweet the sound	すばらしき神のお恵み	なんて優しい響きなのか
That saved a wreck like me	神のお恵みは私 ^{わたくし}	のごとき絶望した人間をも救って下さった
I once was lost but now I'm found	私はかつては生きる屍 ^{しかばね}	進むべき道を見失いこの世に絶望した
Was blind but now I see	しかし今	私は神によって救い出されたのだ
'Twas grace that taught my heart to fear	私はかつては盲目同然	生きる意味さえ見出せなかった
And grace my fears relieved	しかし今	私は神によって見る目を与えられたのだ
How precious did that grace appear	'Twas grace that taught my heart to fear	わたくしの傲慢な心に
The hour I first believed	And grace my fears relieved	神のお恵み
	How precious did that grace appear	これこそが私の生きる不安をお救い下さった
	The hour I first believed	何と貴重なこと そのお恵みが現れたのは
		まさに私がはじめて「信じる」ことを知った日
Through many dangers, toils and snares	Through many dangers, toils and snares	これまで数え切れないほどの危険、日々の労苦、神の教えに反する誘惑の果てに
I have already come	I have already come	私はついにこのことに気がついた
'Tis grace have brought me safe thus far	'Tis grace have brought me safe thus far	私がこれまでずっと平安に生きてこられたのは 神のお恵みがあつたから
And grace will lead me home	And grace will lead me home	神のお恵み それは私をこれからも 天国へと導き下さるであろう

2 歌詞の発音について

暗記しやすいようにできるだけ近いカタカナをふりましたが、英語の発音とは根本的に違います。カタカナはあくまで参考にして、できるだけナチュラルな発音ができるように練習しましょう。

Amazing grace, how sweet the sound	アメイジング	グレイス	ハウ	スウィート	ザ	サウンド
That saved a wreck like me	ザット	セイブド	ア	(ウ)レック	ライク	ミー
I once was lost but now I'm found	アイ	ワンス	ウォズ	ロスト	バツナウ	アイム
Was blind but now I see	ウォズ	ブラインド	バツナウ	アイスィー		
'Twas grace that taught my heart to fear	ウォズ	グレイス	ザット	トート	マイハート	トゥ
And grace my fears relieved	エンド	グレイス	マイ	フィアズ	リリーヴド	
How precious did that grace appear	ハオ	プレシャス	ディド	ザット	グレイス	アッピァ
The hour I first believed	ジ	アウア	アイ	ファースト	ビリーブド	
Through many dangers, toils and snares	スルー	メニ	ディンジャーズ	トオイル	エンド	スネアズ
I have already come	アイ	ハブ	オールレディ	カム		
'Tis grace have brought me safe thus far	イズ	グレイス	ハヴ	プロート	ミー	セイフ
And grace will lead me home	エンド	グレイス	ウィル	リード	ミー	ホーム

3 詩のスキヤニング(構造分析)ライム(韻)とリズムについて詳しく調べることをスキャンと言います。まず各行の語尾の音を分析し、次に1つの行の音の強弱を考えてみよう。

(行の最初の音に注目)

a 音	A
th 音	B
a 音	A
a 音に近い	X
th 音	B
a 音	A
h 音	X
th 音	B
th 音	B
a 音	A
th 音	B
a 音	A

(リズムに注目)

Amazing grace, how sweet the sound
 That saved a wreck like me
 I once was lost but now I'm found
 Was blind but now I see

'Twas grace that taught my heart to fear
 And grace my fears relieved
 How precious did that grace appear
 The hour I first believed
 Through many dangers, toils and snares
 I have already come
 'Tis grace have brought me safe thus far
 And grace will lead me home

(行の最後の音に注目)

d 音	A
i 音	B
d 音	A
i 音	B
ar 音	C
d 音	A
ar 音	C
d 音	A
ar 音	C
m 音	D
ar 音	C
m 音	D

行頭の音も繰り返しのリズムがあります。詩人はここでも行の結びつきを強め、繰り返しの音によるユーフォニー(心地よい音)を作り出しています。

行頭の音が韻を踏むことを「頭韻を踏む」と言います。

一行は弱強の繰り返しのリズムで進行しています。他にも強弱とか弱弱強、強弱弱等のパターンがありますが、弱強が一番多用される基本パターンです。

行の結びつきを強めるためと繰り返しの音による心地よさの効果のために最後の音が ABABCACACDCD と連続します。これを「韻を踏む」と言います。また語尾の韻を踏んでいるので、特に「脚韻を踏んでいる」と言います。

以上のように、詩人は音、意味、韻などを考えながら詩を作っていきます。

優れた詩は声に出して読むと、繰り返されるリズムや同じ音が繰り返し聞こえることで内容を高める素晴らしい効果を発揮するので、読む人は目、耳、口で味わうことができるのです。

厳密に組み立てられた詩は、まるで豪華な手織りの絨毯のように縦糸と横糸が緊密に絡み合っていて、全体として優れた効果を発揮しています。まさに言葉の宇宙ですね。

これは英語の詩に限りません。中国の漢詩もわが国の和歌や短歌なども韻を大事にしています。

またそうした古典芸術だけでなく、現代のロックやフォーク、ラップなどの黒人音楽などでも韻とリズムの法則がづらいぬいているのです。